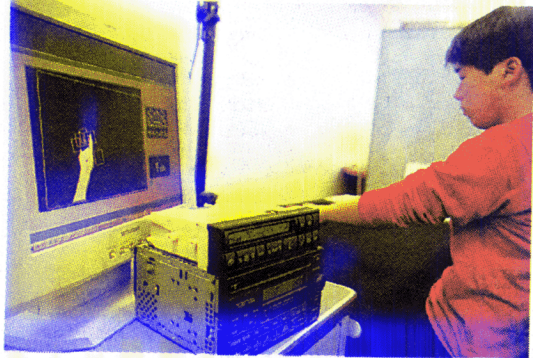


自動車エアコン 手を触れず操作



事故防止へ各社開発

自動車メーカー各社が、カーエアコンやオーディオを直接触らずに操作できる装置の開発を急いでいる。手を振るなどのしぐさだけで済むため、運転中にスイッチを探して視線をそらすこともなく、事故防止が期待できる。製造コストを2万円以下に抑え、5年以内の実用化を目指す。

化学メーカーが事業構造の転換を急いでいる。三菱化学は、生命科学などの得意分野に経営資源を集中し、旭化成は伝統の「自前主義」を捨てて他社からの原料調達に踏み切る。統合予定の三井

化学と住友化学工業は、アジアでの拠点拡充を図る。世界的にコスト競争が激しい化学業界の構造改革は待たない。三菱化学は不採算事業からの撤退を進める一方、次期経営計画では成

長分野に重点的に投資する。稼ぎ頭の医薬事業では、連結営業利益の4割を稼ぐ三菱ウエルファーマを牽引役に据え、他社との提携などで一層の収益向上を目指している。01年に社内分社制に移

三菱自動車は、慶応大工学部との斎藤英雄助教授らと共同で「ハンドシェーブスイッチ」を開発したII写真。運転席上部に取り付けた電荷結合素子(CCD)カメラが左手の動きを判別し、エアコン類に信号を送る。

例えば、人さし指でスイッチを押すしぐさを繰り返すと、操作したい機能が「温度」「風量」などと切り替わり、そのつど音声で伝えてくれる。次に、握り拳を前後に動かせば、温度や風量の上げ下げができる。

日産自動車は、手が発する熱を感知する遠赤外線センサーを使う方式を検討している。CCDより高価だが、暗い中でも手の動きを感知できる点が優れている。